

2026 年度「深田賞」受賞者 顕彰理由

井上 大榮（いのうえ だいえい）

井上大榮氏は、1969 年（昭和 44 年）東北大学理学部地学科を卒業し、同年、電力中央研究所技術研究所に入所、主に電力施設の建設に係わる地質調査に従事し、地質部長、研究参事、首席研究員を歴任した。2009 年（平成 21 年）からは同所研究顧問となり、2012 年（平成 24 年）よりシニアアドバイザーとなり、現在に至っている。

井上氏は、多くの電力構造物建設の地質調査に関わり、応用地質・電力土木分野における地質調査と評価法の技術開発に尽力した。特に断層の活動性評価に関して、トレンチ調査手法を導入するとともに物理探査手法を積極的に活用し、活断層調査・評価の発展と体系化に貢献した。これらの研究成果は、国内外の原子力発電所の立地や耐震設計に必要な活断層調査に活用されてきた。また高レベル放射性廃棄物の地層処分における活断層評価の議論を主導し、原子力発電環境整備機構（NUMO）のその後の事業に貢献している。このように同氏は、50 年以上にわたり電力土木分野の地質技術者として、学术界と実務界をつなぐ技術開発の第一線で活躍され、その応用・発展に尽力してきた。

さらに井上氏は、国際的にも活躍され、国際テクトニクス会議では、日本で培われた活断層の「決定論的評価手法」と欧米で主流の「確率論的評価手法」を融合した評価方法の構築に尽力し、世界の断層評価の専門家から高く評価された。また韓国における原子力発電所立地に係わる活断層評価にも大きく貢献した。さらに国際的視野の重要性を認識し、若手研究者の海外経験を積極的に支援した。

同氏は、日本応用地質学会の会長ならびに国際委員会委員長をはじめとして各種委員会の委員、土木学会の原子力土木分野や活断層に関連する技術委員会等に加わられたほか、科学技術庁や原子力安全基盤機構、新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）、産業技術総合研究所活断層研究センターの断層調査や評価に関する委員等を多数務められてきた。また全国地質調査業協会連合会の応用地形判読士検定委員会では、設立以来、長年にわたり中心的な役割を果たされてきた。さらに東京工業大学理工学部連携教授や中央大学などの大学で集中講義を担当し、次世代の土木・地質技術者の養成に尽力した。

以上、井上大榮氏の応用地質・電力土木分野における地質調査の技術開発、特に活断層の調査法・評価法の発展と体系化、また学協会ならびに行政機関の委員会等を通じての研究・技術成果の社会への還元、我が国の知見の国際的な展開、次世代の土木・地質技術者の育成は極めて高く評価される。これらのことから、井上大榮氏をここに顕彰する。

2026 年 9 月 28 日

公益財団法人 深田地質研究所

理事長 松田博貴